

# 参考資料

## 1 町長あいさつ 要旨

第1回会議での町長あいさつの要旨は、以下のとおりです。



### 町長あいさつの要旨

葉山町長の山梨崇仁と申します。日曜日の天気の良い中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。はじめに、今日皆様にお集まりいただきました理由と、皆様を選ばせていただいた方法、そして何よりお集まりいただいた目的について、私から簡単にご説明いたします。

役所では総合計画というものを持っていますが、それは何かということを中心に説明します。

一般企業で仕事をされている方はご存知の通り、中期の事業計画というものがあって、年度ごとの売り上げ、決算を検証しながら、事業計画をどう進めていくか、見直しをします。売り上げが上がればそのまま進め、下がってしまえば引くか、さらに進めるかを検討します。そこには基本的に売り上げという正義があるから、その中で進めていく事業計画になりますが、行政の場合はそれがありません。

そうした中で、町民の皆様が普段どのように考え、皆様のお金を将来に向けてどのように使っていけばいいのか判断する指針をどう作っていくのか、国や県から、こういう方針でやってください、こういう方向で町を進めてください、という連絡はありますが、まさに地方自治ということで、地方を自ら治めることが今、私たちに求められている仕事の大きなテーマになっています。

私は1年半前、皆様の力添えでこの職に就かせていただきました。その中で町の方針をこうしていきたい、町をこういうように描くことで将来葉山町が元気になる、そういった思いはお伝えしました。おそらく皆様の中でそれと大きく違う、例えば葉山を工業の町にしたい、大きな煙突をいっぱい建てて山をどんどん削ってこう、こう考える方はそう多くはないと思っています。

私は、以前に皆様に訴えたことに支持をいただきましたが、実際にはもっと細かく、できれば生活の中で葉山をどう彩っていくかがテーマで、その答えは皆様の日々の暮らしの中にこそあると考えています。

そういった中で、全国の自治体が総合計画というものを立てています。その計画に則り、日々行政の仕事を進めていきます。皆様が窓口で住民票や印鑑証明をとるのとは別に、例えば町道の整備だったり、保育園や学校の整備だったり、いろんなところで行政は皆様の生活の基盤を支えています。どのように支えていくかということを経営計画の中に表示しています。それが今回の総合計画をこれから作っていききたいという思いの基になっています。

この中に基本構想というものがあり、今回は約 16 年を考えていますが、長い期間で葉山の町が将来どうなっていくかを固めていくのが基本構想。それを 4 年間、4 年間というように、いくつか分割して、一つのくりで行うのが基本計画。そしてさらに、実際の仕事として役所の職員が何をやるかという実施計画を定める 3 段階の計画をこれから作っていきますが、今回は一番おおもとの構想の部分、10 年後、20 年後の葉山の町がどうなっていくのか、そしてそれをどうしていきたいのかについて、ぜひ皆様に答えを導くお手伝いをしていただきたいと思います。

今回応募いただいた 54 人の方をどう選んだかということ、今、葉山町の人口は 3 万 3800 人で、去年 1 年間、人口が止まっている状況。この 3 万 3800 人の住民基本台帳という住民票の基になるデータから、20 歳以上の方 1500 人を無作為抽出させていただきました。その方たちに郵送し、町のそういう施策に協力いただけるという方がこうして 20 代から 70 代の様々な年齢層の方々に本日こうしてお集まりいただきました。

これから基本構想という町の方針について、皆様に考えていただきたいと申しあげましたが、1 点だけお願いがあります。税金というものは、皆様からお預かりしてその年に使わなければなりません。しかし、ぜひお願いしたいのは、今の住民の幸せが町の幸せかと考えた時に、そうではないかもしれないという気持ちで考えていただきたいということです。

今、税金を使って豊かな町が作ればいい。しかし、それが将来子ども達にとって本当に幸せかどうかということ、ぜひ考えていただきたいと思います。それが今回の基本構想のために皆様にお集まりいただいている一番の私からのお願いであることを改めて申し上げます。

これから県立保健福祉大学の臼井先生に、地方自治について講演していただきます。今、中央集権から地方分権へ、道州制など様々な議論がありますが、その議論の一つとして、地方自治というものがどのように考えられているのか。その中で、市町村や県といったものが、今後どのように形を変えていくことが、日本の国力の活性化につながるのか。その原点となる地方自治というものについてご講義いただきますので、私も皆様と一緒に勉強しながら、これからの葉山町の長い将来に向けて、自分が皆様に示した方針と皆様からいただく声をまとめあげて、平成 27 年度にスタートする葉山町基本構想・基本計画という長期計画を策定していきたいと考えています。ぜひ皆様のお力添えをお願いします。

## 2 「町の現状や取り組み」に関する説明資料

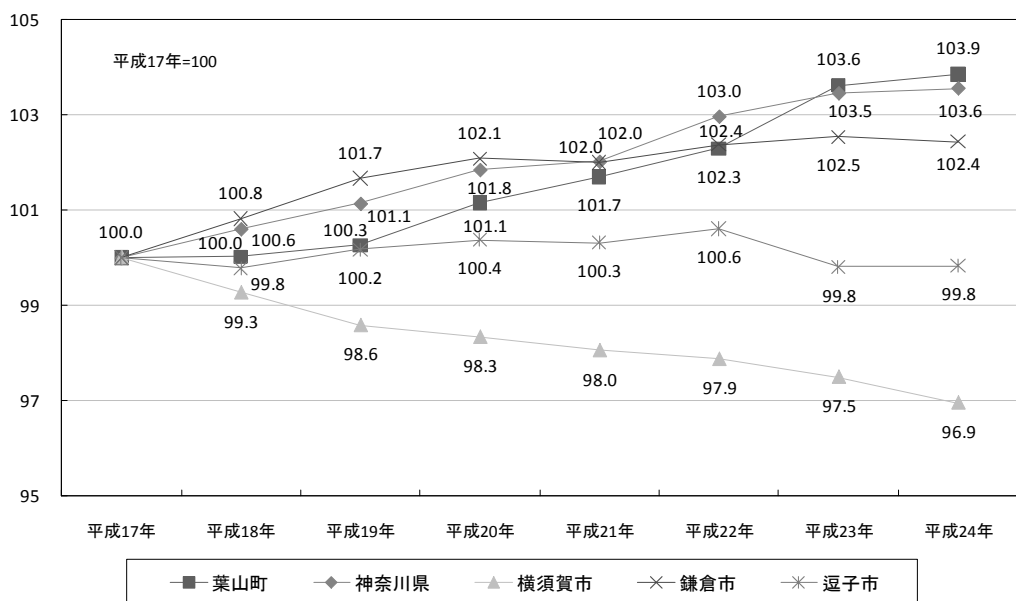
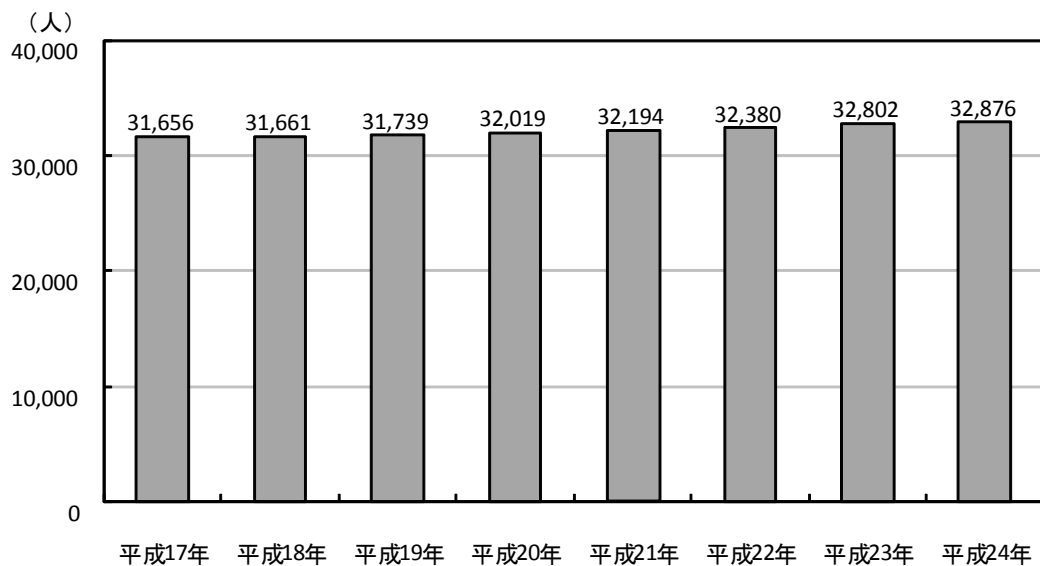
第1回会議での「町の現状や取り組み」の説明資料は以下のとおりです。

### 葉山町の人口動向について

資料 1

本町の人口は年々増加を続けており、平成24年には32,876人となっています。  
 平成17年を100とした本町の人口推移（指数）は、平成24年に103.9と最も多くなっており、近隣市や神奈川県を上回っています。

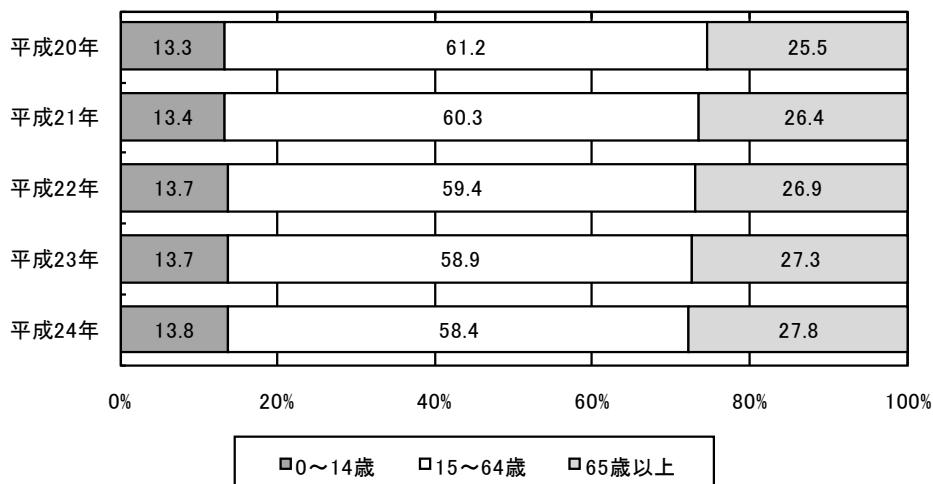
#### ■人口の推移



資料：神奈川県人口統計調査結果

平成 24 年の年齢 3 区分別人口構成は、年少人口（0～14 歳）は 13.8%、生産年齢人口（15～64 歳）は 58.4%、高齢者人口（65 歳以上）は 27.8%となっています。全国的に少子高齢化が進行するなかで、本町においては年少人口が増加する傾向で推移しています。

### ■年齢 3 区分別人口構成比



※割合は小数点以下第二位で四捨五入しており、合計は 100% に一致しない場合があります。

資料：神奈川県年齢別人口統計調査

### ■人口推計

	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 47 年	平成 52 年
総数	33,094	32,379	32,020	31,084	30,054	29,031
0～14 歳 (%)	13.5	12.5	11.4	10.7	10.5	10.7
15～64 歳 (%)	55.7	55.8	56.9	56.5	54.1	50.6
65 歳以上 (%)	30.8	31.7	31.7	32.8	35.5	38.7

〔参考〕平成 22 年国勢調査 人口 32,766 人 65 歳以上人口比率 27.3%

※割合は小数点以下第二位で四捨五入しており、合計は 100% に一致しない場合があります。

資料：国立社会保障・人口問題研究所

①まちづくり関係

キーワード	町の現状や取り組み等
<p><b>【都市整備】</b></p> <p>土地利用、緑地、道路、歩道、車道、橋、公園、景観、建物、都市計画、まちづくり条例、地区計画、建築協定、高度地区、風致地区、開発、交通施策、電線地中化、コミュニティバス</p>	<p>(土地利用・道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 市街地の整備として地域の特性を生かした良好な都市形成</li> <li>◆ 住民との協働による快適な都市環境づくり</li> <li>◆ 地区計画、建築協定制度の導入や地域のニーズに合わせ行政と地域の役割を明確にした公園の維持管理</li> <li>◆ 豊かな住環境の維持・向上のため、まちづくり条例の運用、景観計画に基づき良好な街並みの整備の誘導</li> <li>◆ 橋、道路側溝、街路灯、カーブミラーなども含めた町道の維持管理</li> <li>◆ 河川については、神奈川県が管理する下山川、森戸川に合流する支流河川を町が管理</li> </ul>
<p><b>【産業振興】</b></p> <p>農業、畑、田んぼ、畜産、葉山牛、町民農園、地産地消、地場産業、漁業、ワカメ、潮干狩り、密漁対策、地域活性化商店、商店街、スーパーマーケット、飲食店、特産品、イベント、ブランド、商工会、起業、まちおこし</p>	<p>(農業・漁業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 農家数、農業就業人口とも減少傾向</li> <li>◆ 主な農産物は米・野菜類、少量多品目で生産</li> <li>◆ 農産物の一部は町内各地で行われている朝市などで販売され好評</li> <li>◆ 地場農産物を使った特産品の開発、親子料理教室の開催や町民農園の開設</li> <li>◆ 葉山牛を生産している畜産については、ブランド化の強化、生産量向上のための支援</li> <li>◆ 沿岸漁業やワカメの養殖業が行われている</li> <li>◆ 釣り船などの遊漁案内業も盛んだが天然水産資源の減少</li> <li>◆ 町では「採る漁業から育てる漁業への転換」を進めるため、資源を増やすための漁礁の造成、海底の改善、稚魚・稚貝放流などを漁業協同組合と連携</li> </ul>
<p><b>【観 光】</b></p> <p>マリンレジャー、海水浴、海の家、花火大会、ハイキングコース、旅行、観光客、観光資源、観光 PR、絶景ポイント</p>	<p>(観光・地域活性化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 町の観光は夏の海水浴場開設を中心にハイキングコース、花の名所の PR、花火大会などのイベントを開催</li> <li>◆ パンフレットや新聞、雑誌への紹介記事の掲載、町ホームページなどのメディアを活用し PR</li> <li>◆ 商工会と連携を図り、魅力ある商店街作りへの支援や地域振興対策を進める</li> <li>◆ 南郷地区で進められている商業機能を中心とした交流拠点づくりの支援</li> </ul>

②暮らしづくり関係

キーワード	町の現状や取り組み等
<p><b>【環 境】</b></p> <p>自然、生態系、里山、ゴミ分別、戸別収集、リサイクル、エネルギー、コンポスト、エコ、省エネ、廃棄物処理、自然環境、地球温暖化、公害、鳥獣保護、アライグマ、タイワンリス、水処理、太陽光発電、緑、環境保全、海岸、川、清掃、美化、下水道、浄化槽</p>	<p>(ごみ処理・エネルギー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 資源化、減量化について自主ボランティアと連携して推進</li> <li>◆ 戸別収集の取り組みとしては第一段階の試行として地域性の違う「牛ガ谷戸町内会」、「一色台自治会」に協力を求め平成 22 年からスタートし、その後、「森戸町内会」「向原町内会」「元町町内会」も試行</li> <li>◆ 地球温暖化対策、省エネルギーの取り組みを実施し、町事業によるエネルギー使用量を集計・把握しエネルギー使用量や温室効果ガスを削減</li> <li>◆ 町民向けに住宅用太陽光発電設備の啓発活動</li> <li>◆ アライグマ、タイワンリスなどの外来生物による生活や農作物への被害防止に関する対策</li> </ul>
<p><b>【安全・安心】</b></p> <p>防犯、防災、減災、消防団、防災行政無線、自主防災、防災訓練、危機管理、地震、津波、台風、火災、土砂災害、ライフライン（電気・水道・ガス・電話）、避難所、災害情報、災害ボランティア、交通安全、安全教育、防犯パトロール</p>	<p>(防 災)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 情報取得手段の 1 つである防災行政無線の再整備により、現状よりも放送内容が聞き取りやすくなるとともに、町が情報を取得してから放送するまでの所要時間も短縮</li> <li>◆ 津波ハザードマップ、防災ガイドブックの配布により避難経路の確認、家庭内備蓄を見直し</li> <li>◆ 災害発生後の被害を最小限に抑えるため、災害時要援護者支援プランを作成、運用</li> <li>◆ 被害軽減に大きな効果があるため、多くの方々が参加できるよう防災訓練も継続的に実施</li> </ul>
<p><b>【福 祉】</b></p> <p>高齢者、障害者、生活保護、介護、健康相談、健康教室、グループホーム、デイサービス、バリアフリー、ボランティア、老人クラブ、婦人会、民生委員、生活習慣、健康診断、出産、病院、医療、予防接種、自殺対策、献血</p>	<p>(福祉サービス・医療)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 心身的に病を持った方へ介護保険制度、障害者総合支援サービスなどのメニューによる、その人にあった支援・ケア・給付などのサービスを提供</li> <li>◆ 高齢者の生きがいづくりのため、趣味・娯楽活動やスポーツ・学習・文化活動の機会と場の提供</li> <li>◆ 在宅福祉を中心とした地域活動を進めるため「自主性」・「公共性」、行政と民間という立場を超えた協働体制づくりを行う葉山町社会福祉協議会へ支援</li> <li>◆ 障害者の自立生活支援、在宅生活を支えるサービス、日中活動や暮らしの場の提供、相談事業や情報提供</li> <li>◆ 住み慣れた地域で安心して生活し続けるため、各種検診事業、健康相談、健康教育事業を実施</li> <li>◆ 疾病の早期発見、早期治療を目指し、特定健康診査、各種がん検診等を実施</li> </ul>

③ひとづくり関係

キーワード	町の現状や取り組み等
<p><b>【教育】</b></p> <p>学校、幼稚園、学力、不登校、給食、体力、市民大学、道徳、体験活動、就学援助、学習意欲、家庭学習、特別支援、少子化</p>	<p>(学 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 葉山町の学校は、小学校4校、中学校2校で県内最小規模の学校数</li> <li>◆ 「学習指導要領」が改訂され、授業内容や授業時間数が増加し、特色ある活動などに使っていた「総合的な学習の時間」の時間数が減少</li> <li>◆ 学習カリキュラムの中に地域特性を活かした農業、漁業体験、町民団体との連携による体験的学習を導入</li> <li>◆ 葉山町は比較的狭い地域で顔の見える付き合いができることから、共通の研究組織や交流事業など幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を図るとともに少人数指導など集団規模での教育指導や専門性を活かした指導、小学校と中学校の校種間交流の推進のため、町の費用により教員を配置</li> </ul>
<p><b>【子育て】</b></p> <p>子ども、子育て、育児、保育園、幼稚園、ファミリーサポート、児童館、両親教室、学童保育、家庭保育、出生率、療育、あそび、読み聞かせ、放課後の居場所、小児医療</p>	<p>(保育・学童)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 認可保育園が2園、子育て支援センターが1箇所、小学校区ごとの児童館で遊びの場を提供、相談体制</li> <li>◆ 児童の健全育成や留守家庭児童受け入れの場として各児童館などで学童クラブを運営</li> <li>◆ 乳幼児期からの食育の推進、医療制度の見直し</li> <li>◆ 親が子どもとともに成長していく機会提供のための親子教室開催</li> <li>◆ 家庭の養育力向上を図るほか、児童虐待防止対策を充実させ、予防から支援までの一貫した支援体制</li> </ul>
<p><b>【文化】</b></p> <p>文化、文化財、地域文化、芸術、サークル活動、学習機会、古墳、図書館、しおさい公園、近代美術館、南郷上ノ山公園、生涯学習、スポーツ、生涯スポーツ、レクリエーション、ニュースポーツ、人権、男女共同、青少年、非行、子ども会、成人式、美術品、文化公演</p>	<p>(文化・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 県立近代美術館葉山、しおさい公園、山口蓬春記念館など文化・芸術資源が集まっている</li> <li>◆ 学習要求の高度化に対応するため、大学機関などと連携し学習機会の提供を図る「町民大学」の開催や、「学び」を支援するための様々な情報を提供、活動団体同士や、個人と活動団体を結びつける支援</li> <li>◆ 地域活動を活発にするため、青少年リーダーの養成</li> <li>◆ 親子で自然体験を通じた絆や他の家族とのふれあいを深める機会の提供</li> <li>◆ スポーツ愛好者の底辺拡大、スポーツを始めるきっかけづくり、健康維持、体力の向上のためのスポーツ体験講座を開催</li> <li>◆ 誰でも楽しく参加することができるニュースポーツの普及</li> </ul>

### 3 講義「これからの地方自治」 要旨

第1回会議での県立保健福祉大学の臼井正樹教授による、これからの地方自治に関する講義の要旨は、以下のとおりです。

#### [題目・講師]

「これからの地方自治 ～地方自治の担い手は、地域住民～」

講師：県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科長 臼井正樹教授

#### [講義内容]

よろしくお願いします。臼井です。福祉関係の教員をしているので、葉山町とは、7年ぐらい前からいくつか福祉の計画を策定するお手伝いをした。その縁で、今日は地方自治の話をさせていただくことになった。

私は、地方自治については、福祉の面からずっと考え続けており、20年以上考え続けた結果、現時点でどのように考えているかということをお話したい。それが総合計画の策定のお役に立てばということで参ったので、よろしくお願いします。



#### 1 地域福祉計画について

いくつもの葉山町の計画に携わらせていただいたが、一番最後が昨年の地域福祉計画の策定。地域福祉計画そのものは平成12年に法改正された社会福祉法の中で、義務は課せられていないが作って欲しい計画として記されたもの。それから12年経った平成24年に葉山町が作りたいたいということでお手伝いをした。

この計画では、策定委員会を作り、その委員会と事務局と町役場の方で町民のアンケートを行った。答えていただいた方がこの中にもおられるのではないかと思います。それを基に数回にわたって策定委員会でいろいろ議論をして計画を策定した。

いろいろなところで話していることだが、地域福祉ということで町の福祉を進めるということ考えた時に、日本は、福祉というものを「行政でやる福祉」と考えることが極めて多い。戦後の社会福祉ができてきた経緯からやむを得ない部分もあるが、本来の福祉というものは行政が担う、国や県、市町村が担う福祉ということだけではなく、住民一人ひとりが福祉的な対応をすることが前提にある。そこで、3つの取り組みを基本にしてほしいという話をする。

1番目は「自助」で、住民一人ひとりが主体的に、自分の持っている仔細部分に関してできることは、できるだけ努力しようということが先にある。

その上で、2番目に「共助」。これは地域の人々の中で共に助け合うという考え方。

そして最後に「公助」。つまり町民の生活を支えるセーフティネットとまでいえるかどうか分からないが、



自助でも共助でもなかなか全てのニーズに対応することはできない。その時に法律や制度を使ってニーズを下支えするものが必要。それが公助。

この3つの取り組みが適切に機能することが、地域福祉を進める上で大事だということを前提に計画を進めないかと、何回かにわたって話し続けた。

この話をする時は、教育の事例を使って話をすることが多いが、日本は義務教育だから、今は、障害があろうがどんな状況だろうが、子どもたちは教育を受けなければいけないとなっている。ところが、ヨーロッパや米国では、親が全部自分でやると署名をすると、公的な機関に任せなくてもいい。つまり、ヨーロッパで本当に金持ちの階級になると、自分の資産で家庭教師を雇って全部自分で教育するということが許されている。日本では、それは普通は無理。皇室でも学習院に行かせるなどして、そういうことはしない。一般的に、一定のレベルまで子どもの教育を親が全部面倒見るとするのは、日本では不可能。

親は、社会で子どもが1人で生きていけるようにすることを身につけてほしいから一生懸命金を投じて教育するわけで、日本では途中までは、公的な機関が親から税金という形で資金を預かり、親に代わって教育する。それが、公助として基礎的な自治体の役割になっている。外国なら、自分でできれば自分でやっている。

## 2 地域福祉について

こう考えると、自助、共助の関係というものが分かっていたかと思う。今話したことは、実は、地域福祉の考え方で「プリンシプル・オブ・サブシダリティ」といい、「補完性の原則」と訳される。これは、自分でできることは自分でやろうということを原則に、自分ではやりきれないことは家族で支え合ったり、地域社会で支え合ったりして、それもできない時には、公的なセクションが税で敢行する。だから、税金を納めるという意味は、自分たちでできないことをパブリックなセクションに委ねるためのコストだという考え方にある。これが多分、最も分かりやすい税金の理論じゃないかと思う。残念ながら、日本はこういう考え方をなかなか身につけてこなかったというのが実態ではないかと思う。

「補完性の原則」という考え方は後でまた話すが、キリスト教の考え方で、寺の話をするとなんか分かりやすい。寺には末寺があり、本山があり、大本山があり、総本山がある。で、寺は檀家からお布施をいただくが、こうした末寺からの上納金で本山や大本山などの上が成り立っていると聞いている。キリスト教の教会も同じような構造になっている。ところが面白いのは、末端の教会で起きている問題は、できるだけ末端の教会で処理しなさいという考え方がある。末端の教会で処理できない場合は、上のレベルの教会が手伝う。つまり、末寺で処理できない問題だけ、本山が手伝うという考え方で、本山ができています。

今でも、ヨーロッパではこの考え方が宗教との関わりから色濃く残っている。EU（欧州連合）とその20カ国くらいの加盟国との関係というのは、実は「プリンシプル・オブ・サブシダリティ（補完性の原則）」に基づいて、それぞれの国でできることはそれぞれの国でやって、国を超えてやらなければいけないことだけを連合で連帯してやるという役割分担になっている。キリスト教の組織から出てきた考え方だが、実は今でも世界の中ではいろんな場面で使われている。これは地域福祉の一番基本に据えなければならぬ考え方だと思うが、このことは地方自治でも同じじゃないかというのが、私が20年間ぐらいやってきた結論。結論を先に言ってしまうえばそういうことだ。

日本では、福祉というと、国や地方自治体が行う大きな福祉と理解する人が大変多いが、本来の地域福祉の考え方でいけば、住んでいる皆さんが助け合うほうが、昔からあった福祉の考え方。それで、この考え方をもとに、葉山町の皆さんがどのような福祉活動を行うのか、町役場は皆さんが行う福祉活動をどのように支援するのか、ということを中心に地域福祉計画を作る作業をした。だから、町役場が何かしてくれるということを書くというよりは、町民が行う主体的な福祉活動をどうやって町はサポートするのか、という視点で書かれたものということだ。

### 3 米国の連邦政府と州政府

ここからは少し別の話題。先ほど町長が一言だけ道州制という単語を話されたが、私自身は、道州制は日本ではなじまないと思っている。道州制の議論の前提というものがあって、若手議員がここ 20 年ぐらい米国の地方自治を勉強しに行っているようだ。今の神奈川県知事は黒岩さんで、その前の松沢さんは確か、松下政経塾で米国の地方自治を勉強しに行っていたと思う。

このように多くの人が米国の政治システムを参考にして道州制ということを言われるが、私は米国は参考にならないと思っている。多分、ここにいる方、葉山町の方にも米国で仕事をなさった方がいると思うが、米国の地域社会のあり方、地方自治のあり方を勉強する時に一番大事なのが、州政府とフェデラルガバメント（連邦政府）の関係をどう理解するかということだ。

米国の連邦政府と州政府の関係というものは、日本の参考にはならない。なぜなのか。多分、州政府を見た人が道州制の議論をしているのではないかというのが私の感覚だ。分かっている人には全く当たり前の話だが、米国で最初に独立戦争をしたのは 13 の州で、それは英国の植民地。植民地がかたまりを作っていて 13 のステイツがある。ステイツというのは国。つまり植民地政府。米国の州というのは最終的に 50 州。ヨーロッパから独立していくわけだが、それぞれがコロニー、植民地だ。

大船中央病院の院長である外科医の知人がいる。その人は長く、ルイジアナ州ニューオーリンズで外科医の仕事をしていた。ルイジアナ州はフランスの植民地だった。だから、ニューオーリンズの街中には古いフランスの技術が残っている。それぞれの州が植民地としてできたので、それがユナイテッド、連合して、合衆して国になったわけだから、米国は 50 の異なる国が集まってできた国と考えられる。

ここまで理解すると、米国の状況がよく分かる。米国は、先進国の中では日本と同じように、死刑が廃止できない。日本は考え方として議論になって、死刑を廃止していない。米国の場合、州ごとに刑法ができていて、連邦政府は州の刑法に対して死刑を廃止するか残すという判断はしない。つまり自治として、死刑を残すか廃止するかという判断は州政府の判断になる。だから米国では、死刑は廃止にならない。州と連邦政府との関係が分かると、そのことがすんなり分かる。

しかも、米国では州ごとに死刑の法基準が違う。例えばどういうことかということ、知人から聞いた話だが、米国の医師免許取得のための試験は州ごとに合格基準が違うという。医師免許の試験というのはいろんな分野についてすべて答えなければならず、日本でもものすごい問題量。婦人科の分野があり、内科があり、外科があり、小児科があり、精神科がありというように。その全部の問題から、例えば 8 割オーバーの正答率がないと合格しないというのが一般的な基準。米国でも試験問題自体は全国で同じ内容で行うようだが、ある州では単純に全体の 8 割だったり、またある州では、分野ごとに 6 割以上というボーダーラインをつきつけたりしている。知人の外科医の知り合いの血管外科医は、精神科の問題が全然できなかったが、他の分野の問題ができたので、全体で 8 割以上というラインをクリアして米国で免許が取得できた。精神科の分野で 6 割以上というラインをつきつけられる州だったら、彼は合格できなかった。

この話を日本の学生にすると、医師の水準が州ごとに違っているのか、という議論になったが、このことは、米国が合衆国であるということを理解すれば、全然おかしくない。では道州制として米国型の地方自治を認め、各州が持っている自治権を道州によこせというのなら、日本の中で医師免許の合格ラインが違っていいという議論をしなければならない。ところが、日本人はそうは思わない。医者は皆、同じレベルで合格していないと気が済まない。うちの看護師を目指す学生だってそうってしまう。

それでは医師は、例えばルイジアナ州で免許を取ったら他州では使えないのかということ、州ごとに協定がつくられている。医師がやや足りないと思っている州は、幅広く他州で取得した免許を認める。逆にカリフォルニア州などは、医師の数が足りているので他州の支援をしている。

弁護士も同じ。日本では司法試験に通って司法研修所でも行って、その後弁護士会に登録してというような手続きで弁護士になる。司法試験そのものは国が管理して、同じ水準で合格者を出している。では米国は

どうかというと、州ごとに違うので、例えばニューヨーク州弁護士とか、カリフォルニア州弁護士とか。それで、州ごとに協定を結んで、弁護士が余っているところは他州から来ないようにし、足りないところは来てもいいと連絡をしている。

米国の州はまさしく地方政府、ローカル・ガバメントと呼ぶに相応しい。地方政府だが、統治をする。ほぼ国として成り立つような統治の機関としての地方政府。では、日本で、今話したようなレベルを移植した道州制というのは適当なのかというと、多分日本人の一般的なこれまでの感覚からいくと、米国の弁護士や医師の制度とかで、道州単位で合格基準を変えるのは、多くの人がNOと言うだろう。ガバメントだから、統治をするという感覚の方が米国では強い。州で軍隊も持っているので、そういう意味では、州は1つの国家と考えたほうがよくて、そこを意識して自治の議論をするのは不適當だと思う。

#### 4 地方自治について

では本来の地方自治はどうあるべきか。地方自治という単語を英語ではオートノミー (autonomy) という。この言葉の元になったことは何かというと、前述した、末端の教会が自らの教区で起きている問題について主体的に対応するということ。中世のヨーロッパでは、1500年代前半にプロテスタントが出るまでは、カトリックのみ。そして毎週日曜日の午前中に皆、教会へ行く。教会のエリアはどのくらいかということ、数千人の規模。家族揃って歩いて行けるところじゃないと意味がないから、歩いてせいぜい1時間もかからないくらい。こうして教会に行って顔を合わせる人達の生活エリアがコミュニティという概念になる。それで教会の前にはたいがい広場があって、日曜の礼拝の前後にこの1週間何があったとか、ああしたこうしたという話を交わす。それがコミュニケーション。つまり、コミュニティを成り立たせるために顔を合わせてやりとりすることがコミュニケーション。コミュニティとコミュニケーションは元々は同じところからきている。

こういうことからすると、教会という組織は信者からのサポートで成り立っていることが分かる。それは日本の寺や神社も同じ。地域の人達が掃除しに行ったり、届け物をしたり、そういうことをすることで成り立っている。信者が金を出すということではなく、何か教会に対してボランティアをすることで成り立っている。寺や神社もそうやって地域社会で成り立っている。ただ決定的に違うのは、日本では、寺が宗派で細かく分かれてしまっている。ヨーロッパでは分かれるのは16世紀に入ってから。1500年代初めまではプロテスタントは出てないので、それまでは全部カトリック。だから、地域ごとにカトリック教会がヨーロッパ全域に教区を作った。日本では浄土宗、浄土真宗、あるいは日蓮宗など、それ以外にも宗派がたくさんある。そしてそれぞれが勝手に寺を作っている。単一宗派が地域を分散して役割分担するようなことにはならなかった。日本の仏教がヨーロッパにおけるキリスト教と同じ役割を果たすことはできなかった。

教会の礼拝には賛美歌が付きもの。その時にオルガンを演奏するのはボランティアだが、その役割には特別な意義がある。宗教活動をサポートする女性の代表者みたいな、教会の活動に対するボランティアの象徴みたいな。よって教会関係者の中では、誰がオルガンを演奏するかということは結構大事なことのようだ。

教会の活動をサポートし、それによって教会が成り立っている。教会は司祭、牧師を父親、信者を兄弟、姉妹とするコミュニティであり、教会への献金を通して貧しい信者への支援を行った。これはカトリックの教えの中で、貧しい人に対する教会の役割と位置づけてもいいし、15世紀の半ばから17世紀にかけてイングランドの国王がいくつかの令を出している。その中で教会の貧しい人に対する役割とかを書き込んでいる。

1601年、実際にはイングランド国教会は1530年に成立して、1500年代半ばに国王がいろんな事情で、国内の教会を国教会、国のものとした。そうしたことで、教会を通じて貧しい人を支援しなさいという命令が国の命令になってしまった。つまり、宗教的な命令としてだけでなく、イングランド国王の命令として、貧しい人を教会が支援しなさいというものになった。これが、教会が地方自治の基本となっていき始まりとなった。当初は、キリスト教の信仰の一環として行われてきた、貧しい人達に対する信者間の助け合いとしてやっていたものが宗教色を離れ、国の仕事として教会を使って行うようになった。この時の教会は宗教上の

存在と国営の2つの意味がある。その2つの機能がだんだん合わさってきた。そしてさらに、宗教色を除いたものが独立していく。宗教色を除いた貧しい人への支援がシティホール（市役所）となる。

ヨーロッパに行くと、必ず町の中に広場があり、広場に面して教会がある。そして、その広場、教会の周りを見回すと、ほぼ間違いなくシティホールがある。それは教会の機能が分離、独立したものだ。その教会は、元々は、信者のボランティアで成立した。つまり、教会へ寄付をするということが、貧しい人を援助するためにシティホールに対して金を出すということに変わり、それが税金になった。教会の教区（パリッシュ）が市役所の行政区になったということであり、また、市役所では、教区の人々の教会に対するボランティアを引き続き前提にしていたと考えられる。

英国に長く住んだことのある先輩教員から聞いた話では、イングランドの地方の行政区というのは小さくて何千人の規模しかなく、元々は教会の教区を単位として基礎的自治体ができているため、その再編はなかなか難しいということだ。デンマークとかスウェーデンでは、1970年代か80年代に基礎的自治体の再編成をしていて、現在はデンマークで2万人ぐらいの規模になっている。それでも2万人。再編前は5000人、6000人ぐらいの規模で、皆が歩いて教会へ行ってコミュニケーションをとるというイメージだった。

今話した自治体、シティホールの成り立ちを考えると、これはガバメントではない。米国のように統治する機能はない。その地域に住んでいる人達が、より良い生活をしていくために、宗教色を排除して助け合う役割、あるいは自分たちができないことを任せるところとして市役所ができた。それと米国のローカル・ガバメントとは違うということ、ぜひ理解していただきたい。

地方税を町に払うということは、自分たちの町をより良くしていくためのもの。あるいは、町の中の何か課題を解決するために、町が主体的に対応するために払うべきものだ。私なども税金は安いほどいいと思っているが、ある程度払わなければ、私たちが必要とすることを基礎的自治体に任せるとはできない。基礎的自治体にやってもらうことと対になって、本当の意味で義務感を持って税金を払うということが、ヨーロッパの町の考え方ようだ。このことは、単に税金を払うということではなく、住民が積極的に地域社会を良くしていくことを担うために自らも汗を流すということと対になっていると考えてほしい。自分もできるだけ、地方自治というか、地域社会の中で起きている課題に対し積極的に関わっていける人は関わっていくことで、もしかすると皆の負担が少し軽くできるかもしれない。それができない人が多ければ、金を出して、自分は参加できないからその分をやってほしいということになる。少なくとも、汗と一緒に流すということと金を払うということは、地方自治に参加するための大きな方法論。金を払うことも参加のひとつだし、実際に自分がある部分を担って地域のニーズに対応することも地方自治に参加することの一つだと考えることができる。

今話したことは、地域福祉の話をしているのか、地方自治の話をしているのか、渾然一体となっている。私自身は、そういう考え方でほぼ間違いないだろうと、20年考えた結果、そう考えている。

今話してきたようなことを含めて、地域社会をどうしていくか。そういう全体が、多分自治なんだと思う。それは他の誰でもなく、地域の人々の手に委ねられている。つまり、町のことは、町の人々が主体的に考えることが大切だ。国や県があればこれ言っても、一回それが本当に町に必要なことかどうか考えて、必要であればやればいいし、必要でなければやめればいい。広域的な県や国は、町の主体的な取り組みが、町だけでは行いきれない場合に「補完性の原則」に基づいてサポートすることが適切だ。つまり初めから国が、県がというのではなく、自分たちでやって、それでもなかなか全部はやりきれない。

先日、横須賀に来年オープンする身体障害・知的障害の重度重複障害の施設の人達と話す機会があったが、そういう施設を人口3万人の町の自治体が持つのは無理。3万人の町では、その施設に見合う利用者が集まらない。それは、三浦半島全体で、あるいは神奈川県全体で考えればどうなのかということで課題提起し、どこかでどのレベルで対応すればいいのかという議論をしていくことが大事。それは今話した「補完性の原則」で、葉山町単独では難しいが、三浦半島全体では一つあったほうが良いということになれば、三浦半島

の各自治体でどうするか、県はどうサポートしてくれるのかというような議論をすればいい。

あるいは、PET（陽電子放出断層撮影）という乳がんを早期発見するための検査機器はそれなりの設備費がかかるが、それを3万人の規模で設置するのが適切なのか、あるいはもう少し広いエリアで考えるほうがいいのか。また、ガン治療の最先端といわれる治療法で、ピンポイントで患部に放射線を当てる重粒子線というのがあるが、この機器はかなりコストがかかるもので最低でも都道府県単位で考えるものといわれている。このようなことは、補完性の原則に基づいて、国や県が地域で起きている課題に対してどのように施策を考えるかということだ。

## 5 総合計画の策定

総合計画というのは、最終的には町が作るが、今回は皆さんが参加して町に対していろいろとディスカッションする。町の計画だから町が作ればいいということは、決してない。計画には大きく分けて、町が全責任を負って町民にこういうようにやると提示する行政計画と、町民と町が一緒になって作る社会計画の2つがある。総合計画というのは、町の将来のあり方を前提として作るものなので、町だけで作るのではなく、町民全員というわけにはいかないが、できるだけ多くの声が届くような形で作る社会計画の手法のほうが好ましいというのが当然のことだ。

今回、皆さんに集まってお話し、この後何回かに分けて議論するわけだが、まずは皆さんが町の将来についてどんなイメージを持っていてどうしていきたいのかということ素直に話していただきたい。いろいろな意見が出て収拾がつかなくなることもあるが、このプロセスを踏まないと、行政が作っただけの総合計画になってしまう。町民が参加して、計画づくりのプロセスの中で議論をすることで、社会計画になる。つまり、皆さんがどんなふうに将来を考えていて、そのために今の町にはどんなことが可能なのか、そして一方では皆さんが主体的に汗を流してくれることが前提の話。行政としては、それをどこまで一緒に担っていけるのか。町に期待する前に皆さんが主体的に町のあり方を考え、その後どんなことを町に重点的に取り組んでほしいのか。そんなことをこの後の議論で出していただきたい。

町の将来のあり方を描き、それに向かって皆さん自身が行うことと町が支援する部分を描くことが総合計画策定の意義。そして、その総合計画に基づいて、皆で一緒に汗を流していくことが地方自治の本質と考える。そうではないという考えもあるかもしれないが、私はそう思うということを皆さんに伝えるために今日の講演に臨んでいるので、参考にさせていただければ幸いに思う。



## [講義資料]

### 地方自治とは何か 葉山町総合計画策定のために

神奈川県立保健福祉大学  
臼井正樹

1

### 地域福祉計画について

- 葉山町では、平成24年度に地域福祉計画を策定
- 地域福祉計画策定委員会では、町の人々の意見をアンケートしつつ、何回かにわたって計画策定に関し議論を行った。臼井は、委員長としてこの計画策定にかかわった。

2

### 地域福祉計画について

- この計画では、町の福祉を進めるうえで、  
①自助(住民一人ひとりの取り組み)、  
②共助(住民同士の地域における支え合い)、  
③公助(町民の生活を支えるセーフティネットとしての町の取り組み)  
の3つの取り組みが適切に機能することが大切であるという考え方を基本にすえた。

3

### 地域福祉について

- 地域福祉の考え方に「補完性の原則」がある。(プリンシプル オブ サブシダリティ = principle of subsidiarity)  
これは、自分でできることは自分で行い、自分ではできないことは家族で支え合い、家族でもできないことは地域社会で支え、それでも難しい場合は公的なセクションが税で担当するという考え方である。

4



## 地域福祉について

日本では、福祉というと国や地方自治体が行う福祉サービスと理解する人が多いが、本来は、みんなで助け合うことの方が昔からあった福祉の考え方。

この考え方をもとに、葉山町の皆さんがどのような福祉活動を行うのか、町役場はそれをどのように支援するのか、ということを中心に地域福祉計画の策定を行った。

5

## アメリカの連邦政府と州政府

- 若手の議員さんたちが大勢、アメリカの地方自治を勉強しに行っている。
- しかし、アメリカの連邦政府と州政府の関係は、日本にとってあまり参考にならない。
- しかし、この議論をもとに道州制が提案されている。

6

## アメリカの連邦政府と州政府

- アメリカは、一つひとつの州がヨーロッパの植民地であったことを思い出してほしい。植民地のうち、イギリスの植民地であった13の州のイギリスとの独立に向けた戦いが独立戦争。
- 例えばルイジアナ州はフランスの植民地であった。

7

## アメリカの連邦政府と州政府

- つまり、アメリカでは一つひとつの州が国であると考えるのが適切。だから合衆国。死刑について国として廃止できないし、医師免許、弁護士免許等は州単位のもの。
- ということは、州という自治体は、地方政府という方がふさわしいもの。
- では本来の「自治という概念」はどういうものか。

8

## 地方自治について

地方自治 = **Autonomy**

**Autonomy** のもともと意味はどのようなものか。中世ヨーロッパでは、キリスト教会の存在が人々の生活の中で大きな位置を占めていた。日曜日に教会へ礼拝に行くことでコミュニティの人々は顔を合わせ、話をする。このコミュニケーションがコミュニティの源泉である。

9

## 地方自治について

教会という組織は、信者のサポートによって成り立つもの。信者は、献金するだけでなく、教会の活動に対し、ボランティアすることが求められる。(これは、日本におけるお寺さん、神社と檀家、氏子の関係と同じ。)

教会の礼拝の際に、オルガンを演奏するボランティアにはと特別な意味がある。

10

## 地方自治について

教会は、司祭を父親、信者を兄弟姉妹とするコミュニティ(共同体)であった。このコミュニティでは、教会への献金を通して貧しい信者への支援が行われた。

16世紀中ごろ、イングランド国教会の成立によって、もともとは教会の役割であった貧しい人への支援が、法律に基づくものとなった。

11

## 地方自治について

当初、キリスト教に対する信仰の一環として行われてきた貧しいものへのコミュニティによる支援は、次第に信仰から独立した営みとなっていく。教会から独立して市役所(シティホール)ができていく。

このとき、教会の教区が市役所の行政区となる。また市役所では、教区の人々の教会に対するボランティアを引き続き前提にしていたと考えられる。

12

## 地方自治について

つまり、地方税を地方自治体に支払うということは、自分たちの町を自分たちでより良いものにしていくためのものであると、ヨーロッパでは伝統的に考えられてきた。

それは、単に税金を払うということだけではなく、住民が積極的に地域社会をよくしていく活動を担うために自ら汗を流すことと対になっている。

13

## 地方自治について

このような地域の取り組みを自治といい、それは、ほかの誰でもなく、地域の人々の手に委ねられている。より広域的な県や国は、町の主体的な取り組みが、町だけでは行いきれない場合に「補完性の原則」に基づいてサポートすることが役割であると考えべきであろう。

14

## 総合計画の策定

総合計画は、自治法に定められた基礎的自治体の定めるべき計画。

町の将来の在り方を描き、それに向かって町民の皆さんの主体的な取り組みと、それを支える町の取り組みがあることが望まれます。

まずは、皆さんが町の将来の在り方を皆さん自身の手で描いていくことです。

15

## 総合計画の策定

皆さんが町の将来の在り方を描いていくこと、皆さん自身が行うことと町が支援する部分を描くことが総合計画の策定の意義です。

そしてその総合計画に基づいて、みんなで一緒に汗を流していくことが、地方自治(Autonomy)の本質であると考えます。

16

※総合計画は地方分権改革の中で、地方自治法による策定義務はなくなりましたが、葉山町では、これまでどおり策定していきます。



## 4 第2回会議のグループワークの結果概要

### 1班 「住んでいる人と訪れる人に快適な葉山」

1班では、町民が暮らしやすい町であるだけでなく、訪れる人にとっても魅力的な町であり続けてほしいという共通認識のもと、「住んでいる人と訪れる人に快適な葉山」を基本コンセプトに協議。将来へ向けての課題を都市整備、産業振興、自然の3分野に大別した上で、公園・道路整備や公共サービス拡充、観光や農林水産業等のサポート、自然環境の維持といった個別項目について検討しました。

#### 1班の意見の整理表

分類	【強み】	【弱み】	【改善策】
都市整備 ① 公園・道路 「住民が快適に暮らせるインフラ整備」		131 子どもの遊び場が案外近くにない。	171 町全体をグリーンパーク化する。観光客の誘引につながる。
		132 公園が少ない（特に長柄）。	172 電柱の地中化、歩道の整備をしてほしい。
		133 週末や休日の観光客等の車が多く、渋滞がひどい。	173 公園整備については、幼・小・老を一体化した形のものを設置し、地区内交流の活性化を図る。
		134 道路事情が弱い、特に歩道が狭くて怖い。	174 公園・道路の整備。
		135 公共の乗り物がバスしかないのに、ノンステップ化があまり進んでいない。	
都市整備 ② 公共サービス 「公共サービス拡充」		136 防犯体制の甘さの解消（自治会活動の限界）。	175 電車が通ると良い。
		137 町役場からは、情報をもっと流して頂きたい。町民より良い葉山にと前向きに。	176 横須賀の病院の町民割引。
		138 ゴミ問題（この頃ゴミが増えてきた）。	177 防犯カメラの拠点設置が必要。
		139 下水道に100%つなげる努力を。	
		140 町からの声かけを、もっとひんぱんにする様に。	
		141 総合病院が町内に無い。	
都市整備 ③ その他	101 信頼できるご近所さんが多い。		
	102 住民が町の事が好き。		
	103 葉山の町は他の町より小さく、行政管理がしやすい。		

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
産業振興 ①観光	104	オシャレなお店・レストランがある。→それを観光にもっとつなげて行ければ良いなど・・・。	142	是非、道の駅を作り、町の力を集結させ、葉山特産品を並べてほしい。	178	産業振興の一環として、道の駅を設け、特産品の販売、町そのものを知らしめる。
	105	都心から近く、観光客誘引のチャンスに恵まれています。	143	観光客誘引の力が弱い。	179	商店連合会で、ゆるキャラ作成。
					180	特産物の開発。
					181	観光マップやサイトを作って、観光者も回りやすく（葉山芸術祭のようなセンス良い感じで）。
					182	駐車場を海寄りのは高額にして、逗葉新道に近い所にして、そこからバスや自転車で行ってもらってはどうか？
				183	山や海の活用と町の宣伝のため、日帰り入浴施設を設けたらどうか（海が見える）（緑の中で）。	
産業振興 ② 農林水産			144	農林、水産、商工が観光に結びついていない。		
			145	産業を活性化させる事が、町がうるおい、美しい葉山にするには必要に思う。農業、漁業、商店、町民の知恵、すべて不足している。		
産業振興 ③その他			146	職場・クライアントから遠い。	184	葉山のイメージをこわさない町づくりを（小さくギュウギュウに建てられた家は、見た目に悪い）ので、植栽を義務付けとか。
					185	葉山町の中での、自然をこわさない産業育成。
自然	106	海・山の自然に囲まれている（観光資源に恵まれている）。葉山は自然が財産。海岸線のすばらしさ、砂浜、磯と山も少し頑張れば、気持ちよいハイキング。里山のすばらしさ。自然が豊かな点は、他の市町村に誇れる。	147	自然が失われつつある？	186	森林を守る取り組み。
	107	楽しいアクティビティーが多い（アウトドア、海の家、芸術祭 etc）。			187	自然散策路に一定の定期整備が必要です（草刈りや案内板の設置等）。
					188	農林水産業の更なる育成が望ましい。

## 2班 「みんなが葉山の魅力を感じられる街づくり」

2班では、豊かな自然、若い住民の増加、観光等に伴う活気等を葉山のブランド化につながる強みとしつつも、弱みとして、主に交通利便や行政サービスで、居住地域や年齢層の違いによる不公平感が生じていることに着目。「みんなが葉山の魅力を感じられるまちづくり」を基本コンセプトに、公共交通の整備、福祉・医療面での行政サービスの充実等を将来的な方策としてまとめました。

### 2班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
町並み 公共交通 道路	201	街並みがきれい、美しい。	231	交通の便が良くない。	271	雨の日の渋滞の大きな原因は、車の送迎の多い事。なるべく公共交通の利用をうながす。
	202	棚田	232	東京からのアクセス（交通）が悪い。	272	車と人の交通ネットワークを分離する（街づくり設計）。
	203	高い建物が少ない。	233	雨の日の道の渋滞。	273	新しい「観光」の考え方として、「産業観光」「街道観光」などがあるが、葉山の景観を生かした海岸線（県道 207 号線）に沿って、安心して歩ける歩道を整備する。
	204	鉄道がない、でもバスが遅くまで走っている。	234	バス停の安全対策が良くない。		
	205	観光・行楽の地でありながらも、ゴミゴミしていない。	235	歩道が狭い。		
	206	御用邸	236	国道や県道に、歩道が整備されていないくて、安心して歩けない所が多い。		
	207	海が静かで水もきれい。	237	「魅力ある街」作りを、全体として考えるべき。	274	新しい「観光」は、観光客が殺到するというイメージではなく、住民が住みよい街を作り上げ、それを他所の方に観せる、観に来るという方向で考えるべきである。
自然	208	空気もさわやか。				
	209	海岸線、鐙摺から長者ヶ崎までの景観は日本一だと思う。				
	210	公園				
	211	海、マリーナ、海岸				
	212	自然が豊かで、大事にしたいと思っている人が多い。				
	213	環境の良さ（海もあり山もある）。				

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
自然 (続き)	214	相模湾の夕景はすばらしい。				
	215	海・山・豊かな自然（四季を感じる）。				
	216	すずしい夏。				
観光  「葉山」が ブランド 化している。	217	おしゃれなレストラン、 お店がある。	238	これといった観光名所がない（寺・神社）。	275	葉山にあるレストラン、 店、会社の PR（TV、雑誌 等）。
	218	美味しい野菜が食べられる。	239	見るべき産業がなく、町の 財政が心配。	276	沿線の古蹟や庭園を観光 資源として活用する。
	219	ヨットの大会、学生が集 まり、街が活気づく。	240	鉄道の駅がないため、産 業誘致やベッドタウン、 観光宣伝等に不利である ことは否めない。		
	220	美術館				
人暮らし 高齢者 子育て 教育 格差	221	アーティスト、芸術祭。	241	総合病院がない。	277	逗子、横須賀と連携し、 総合病院の誘致、活用。
	222	地元を愛する住民（意志 を持って住んでいる人が多い）。	242	大きな病院が少ない。	278	コミュニティバスの運 行。
	223	住民が穏健で、親切な方 が多い。	243	介護地の島？が町内に点 在。高齢化に伴い不安。	279	近隣の自治体との交流活 発化。
	224	少しずつ若年層が増えて きて嬉しい。	244	坂が多い。高齢者には住 みにくい町。	280	「産業振興」
	225	教育に力を入れている。	245	子育て中の人にとって、 住みやすい所になってい るかわからない？	281	水産業・農業との活用を する。
			246	教育や行政がちょっと保 守的、閉鎖的に感じる。	282	新しい企業誘致は殆どで きないと思われるので、 葉山の持っている強みを 活かして「観光」を振興 すべきではないか。
			247	地域間の格差がありすぎ る。		
			248	昔から住んでいる人々と、 移り住んで来た私たちとの 接点（わかりあえる）がない？		
		249	食品以外の買物をするの に、とても不便を感じる。			

### 3班 「暮らしやすく 活気ある町」

3班では、メンバーの大半が圧倒的な町の強みとしてあげた豊かな自然環境が、一方で渋滞の激しい道路に代表される社会インフラの未整備や高い物価、地域コミュニティの機能不全といった弱みの要因にもなっていると指摘。「暮らしやすく活気ある町へ」を基本コンセプトに、自然環境を維持しつつ、弱みとされる課題を克服するための具体的方策をいくつか実現可能なレベルで提示しました。

3班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】
葉山町のよさ	301	心のなごむ町。	331	平地が少ない。	
	302	自然に恵まれている。(3件)	332	森が荒れている(住宅地と森のつきあい)。	
	303	明るく、気候がすごしやすい。			
	304	緑地が多い。			
	305	世界に誇れる自然遺産(逆転断層スコリア等)。			
	306	自然が良い。すばらしい。			
	307	空気がよい。			
	308	文化教育を大切にしている町。			
	309	都心に通勤可。			
	310	羽田空港まで高速道路で45分。			
	311	のんびり感。			
	312	ビーチ(夏の海の家)			
	313	都心から近く、都会的。			
	314	地産地消が可能。			
	315	子育てに最適な町。			
	316	近郊から多くの観光客が訪れる。			
	317	大学のヨット部が数多く合宿所を持っている。			
	318	山、川(費用対効果?)。			
	319	御用邸があり、安全であり、一色海岸など整備されている。			
	320	町が安全。			
321	静か。				
322	海が近くにあり、富士山も見える。				
323	海水浴ができる。				
324	マリンスポーツ。				

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
広報	325	老人が元気。	333	町の広報（ホームページ、イベント）。	371	品川での広報と海の家でアンテナショップ。
			334	冬の観光客数。	372	葉山ブランドの情報発信。（2件）
			335	葉山の朝市、食事のできる場所がない（葉山独自の地魚料理）		
渋滞			336	交通渋滞。	373	新逗子に車のロータリーを！
			337	交通渋滞（特に雨の日）。		
			338	鉄道、駅がない。（2件）		
			339	交通マナーが悪い。		
社会インフラ			340	多方面のインフラが未整備。		
			341	産業がない、少ない。（2件）		
			342	税収の元となる産業がない、少ない。（2件）		
			343	地域救急受入れ病院がない。（2件）		
商工産業	326	ブランド品（しらす、はやま牛）。	344	商工政策が機能不全に見える。		
	327	葉山の名前（ブランド）。	345	人口、法人が少ない。		
			346	観光客に依存する商業が多い。		
			347	魚釣りをする場所がなくなっている。		
			348	一部業者による海岸エリアの専有化。		
コミュニティ	328	町内会の活動が活発。	349	町民の結びつきが弱い。		
その他			350	物価が高い。（2件）	374	民間バス契約で町の巡回バスを。
			351	高齢者が多いが、永久の住居となれるのか？	375	団地等専用バス路線の増設
			352	公共機関の老人用の無料パスがない。		
			353	車がないと不便。		

## 4班 「つなぐ」

4班では、環境、安全・安心、健康福祉の3大テーマのもと、町の強み、弱みをリストアップしていくと、地域ブランドや多才な人財がありながらこれらを活かしきれていないなど、その主原因が町民と行政との距離感、行政ビジョンの不透明さ、町内活動の不明確さにあると指摘。これらの改善には、住民間や住民と行政間を、情報発信や主体的活動できちんと「つなぐ」ことと整理しました。

### 4班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
環境	401	「葉山」のブランドカ。 (3件)	431	ブランドカ。	471	旬産旬消(地産地消)。
	402	コンパクトな町。(2件)	432	閉鎖的なイメージ。	472	個別収集。
	403	自然環境(海・山)。(2件)	433	隣の住人がどんな人なのかお互いに知らない。	473	リサイクル。
	404	緑や山がきれいで、気持ちが良い。	434	上・下水道料金が 高い。 下水道問題。	474	最終処分場の建設。
	405	豊かな自然。(2件)	435	坂が多く、急な所もあり、 散歩や買い物 が不便で、 疲れる。		
	406	避暑地・保養地的なのんびりとした雰囲気・文化。	436	ごみの分別不良が多く、 近所迷惑な方がいる。(2件)		
	407	自然との調和。	437	ごみ焼却施設。(2件)		
	408	地域性。	438	横須賀との問題(横須賀・三浦は×、逗子・鎌倉は○)		
	409	住みやすい。	439	道路整備。歩道の幅がせまい。(2件)		
	410	良好な生活環境。	440	台湾ンリスが多い。		
	411	都会に比べて空気がすがすがしい。	441	蚊や虫が多い。		
			442	デパート、企業などの複合施設がない。		
			443	産業がない。		

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
安全・安心	412	多彩な町民。	444	道路（歩道）デコボコで歩きづらい、細いところも多い。	475	歩道の整備。（2件）
	413	住民全体で比較的穏やかな方が多い。	445	夏場に脇道に入ってくる車が危険。（2件）	476	通学路の整備。
	414	人が良い、人材（財）。	446	道路が狭い、混雑。	477	自転車レーンの整備（歩道は歩行者専用）。
	415	地域の結束力が強い。	447	交通が不便。	478	コミュニティバス。
	416	意識の高い自治会活動。	448	公共交通機関がバス頼み。	479	夏季は脇道への侵入禁止（住民は除く）。
	417	町内会で情報共有が出来ている。人が見える。	449	町の環境整備（街灯が暗い）。	480	時間規制（住宅地内）
			450	防災準備情報など共有不足。	481	街灯や樹木の整備。
			451	住民税・健康保険料が高い気がする。	482	商業施設の建設。
					483	交通・道路のハザードマップ。
					484	防災情報の共有化。
健康・福祉			452	町政と町民との距離。	485	相談窓口の時間帯、曜日などの多様化。
			453	町の施策や方向性の見えにくさ。	486	大型の総合病院を建てる。
			454	大型の病院がない。		
			455	生活上の困りごとをどこに相談すればよいか分からない。		
			456	海の活用。		
			457	コミュニティの場がない。		
			458	変化に乏しい。		

暮らしづくりグループのワークショップの様子





## 5班 「高齢者が住みやすく 若者が働きに出やすい町」

5班のメンバーから出された町の強み・弱みは、自然環境、住環境、健康・福祉に集約されました。さらにこれらを日々の暮らしにおける改善課題と絞り込んでいくと、町外に通勤通学する若者と、大半の時間を町内で過ごす高齢者に関わるものであることが判明。

「高齢者が住みやすく、若者が働きに出やすい町」を基本コンセプトに、交通網の整備や地域コミュニティ活性化等が必要と整理しました。

### 5班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】
自然環境	501	景観がよくて、住みやすい。	531	海で海藻等を採るのが制限されている。	
	502	自然が素晴らし地域だが不便が目立つ。	532	自然が貴重な地域だが、自然を見るだけでは財政はよくなる。逆に貧困となる。	
	503	自然、海・山の環境が良い。			
	504	環境がよく、緑と海がある。			
	505	海と山の景色は全国一と思われる（住めば都）。			
	506	葉山と言えば上品なイメージを与えてしまうが、今は果たしてどうか？			
住環境	507	児童館があったおかげで、放課後の遊び場があった。	533	町中の住宅地の道路が狭い。	
	508	おいしいお店がたくさんある。	534	建築確認をとった後に塀を建てて狭くしている。	
	509	お年寄りの面倒を見る人が多くなっているように思える。			
ゴミ			535	ゴミ管理。住民以外が捨てる。	571 ゴミの焼却は広域で行う。横須賀市との連携はできないのか？
			536	分別の種類が少ない。	
			537	ゴミステーションにゴミを出す人のマナーが悪い。（①分別の仕方が悪い。②地域の人でない人が持ち込む。）	

分類	【強み】	【弱み】		【改善策】	
交通手段		538	交通手段の不便さ。	572	海側と山側の行き来がしやすい交通手段を増やしてほしい。
		539	大道～木古庭の終バスが早すぎる。	573	終バスの時間を遅くする。
		540	電車がない。都会へ出るのが不便である。		
		541	住むには良いが、通勤・通学には不便。		
安全・安心		542	防災無線が聞こえない。	574	防災無線のデジタル化。
		543	街灯が少ない。		
健康・福祉		544	遊ぶ場所の料金が安い（ゴルフ場）。	575	高齢者が低料金で利用できるようにする。
		545	運動施設について、町民が利用しやすい設定でない。	576	1回 300円で運営が成り立つ施設をつくる。
		546	高齢者と子ども（の交流）のためのプログラムが少ない。	577	町、少年少女スポーツ団体は年に数回、高齢者施設訪問やイベント協力する。
		547	借家対策等の高齢化対策としての拠点づくり（箱物）が不足している。		
		548	介護予防事業について、継続性。予算が成り立たない。	578	NPO法人の団体に継続して行えるよう依頼する。
		549	総合病院、健診機関がない。		
その他		550	つい昔と比べてしまいが、先生の質が落ちている。		
		551	昔と比べて子どもの甘えが多い。親が社会に甘えている。		

## 6班 「すご田舎 葉山」

6班の基本コンセプトは「すご田舎 葉山」。「駅はないが、御用邸がある」「交通便の悪い一色海岸は周辺の海岸より比較的すいている」というようにインフラ面での田舎的な弱みを逆転の発想で強みととらえつつ、豊かな自然環境、治安の良さ、住民の人心の温かさなど田舎的な強みをより強調するユニークな発想をもって、「田舎だけど凄い町」をめざそうとまとめました。

6班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
環境	601	ゴミステーションを整備してもらってカラス対策ができた。	631	タウンリスを多数見かけます。	671	ゴミの分別収集は上手く進んでいますか？
					672	葉山町役場の EMS 認証取得。
					673	行政による再生資源の買い取り。
					674	ゴミ回収の有料化。
					675	ゴミステーションを大きくする。
自然環境	602	人心が温かい。	632	町民の気位が高い。		
	603	海と山がバランスよく配置されている。				
	604	海がきれい。自然が多い。				
	605	気候が温暖。				
	606	自然がいっぱい。				
	607	山あり海あり、温暖。				
	608	海岸。				
	609	庚申塚など歴史的遺産がある。				
	610	マナーが良い。				
	611	あいさつをする人が多い。				
安全・安心	612	地域が分かれていて交流があり、にぎやか。				
	613	下山川のカモの親子				
	614	警察署が大きい。				
	615	治安が良い。				

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
健康・福祉	616	子育てしやすい。	633	保険料が高い。	676	学童保育について、①小学6年までにする。②19時まで無料にする。③場所を増やす。
	617	保育園がよい。	634	生徒数に対して学校数が多い。	677	救急車の数を増やす。
	618	元気な高齢者が多い。	635	子どもへの補助が少ない。	678	救急車に軽自動車を導入。
			636	母が横浜市のグループホームにお世話になっていますが、葉山町にはあるのでしょうか？将来自分が心配です。		
			637	総合病院がない。		
			638	総合病院が遠い。		
			639	医療サービスが整備されていない。		
土地開発			640	少子化対策にあまり取り組みが感じられない。		
			641	観光だけではやっていけない。	679	企業誘致
			642	研究開発都市がいまいち育っていない。		
インフラ	619	駅がない。	643	駅がない。	680	生活排水のたれ流しを止める。
			644	通勤時の渋滞。(2件)	681	町に合った下水道計画。
			645	買い物に車が必要な所が多い気がする。	682	防災時の情報サービス。
			646	バイクや乗用車が無いと辛い。	683	(バスの)片道定期。
			647	食料品アクセス。		
			648	道が狭い(海側や住宅地)。(2件)		
			649	公園や海辺の無料駐車場が少ない。		
			650	潮干狩りの町民イベントがなくなった。(小学校低学年のみ対象)		
			651	下水道が整備しきれていない。		
			652	まだまだ川がきたない。		
			653	ラジオの電波が入りにくい(防災)。		
			654	隣町との連携が良くない。		
			655	BCP 対応が整備しきれていない(急傾斜地他)。		
			656	バスの混雑。		
		657	バス待ちの辛さ(特に夏)。			

## 7班 「もっと活かそう 葉山の豊かさ」

7班が着目したのは、葉山には豊かな自然等の環境や穏やかで民度の高い住人など、町の強みとなるはずのあり余る資源がありながら、地理的要因や人材活用の不備によりそれらを有効活用できていないということ。「もっと活かそう葉山の豊かさ」を基本コンセプトに、町内循環型コミュニティバスの運行や文化・芸術・スポーツ面における著名人や高齢者の知恵や知識を借りるなどの具体的方策を整理しました。

7班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
環境のよさ (自然・文化・地理)	701	教育での体験学習の場を設けやすい。	731	町内、外ともに他地域との公共交通機関でのつながりが悪い(利便性)。	778	コミュニティバス(町内循環と葉山から逗子・横須賀・鎌倉方面)。
	702	生涯教育の場になりうる、自然環境、海・森林・水源等。	732	平地が少ない。		
	703	海が近くて遊び場所がとれる。	733	マリンスポーツ等の葉山だからこそそのスポーツの認知度が低いこと。		
	704	環境がいい(海・山)。	734	各場所の規模が小さい。		
	705	教育・文化・芸術に関する施設や人材。				
	706	盆踊りに集まる人が多い。				
	707	芸術関係の人が多く住んでいる。				
葉山人らしさ、良さ <人材活用ができない。>	708	挨拶がよくできる。	735	町で講演をやってほしい(ジャンルに関係なく)。	771	若い人をいかす方法が必要。
	709	礼儀正しい人が多い。	736	生涯学習講座の内容が薄い。	772	町外勤務者・通学者の上手な活用法。
	710	小さい町だけに助け合いができています。	737	人材活用(地域の人材→教育実践)。定期的かつ継続的に学校教育に携わるボランティア等。	773	夏季の課題の改善、総合教育のあり方。
	711	現代にしては、地域の人との関わりがある方だと思う(信号、総合教育のボランティア・団地・子ども会など)。	738	料理研究家を呼び、教室を開く。	774	「県庁おもてなし課」みたいな、インターネットなどでの情報発信や企画。←“葉山大学”とか、学びの場づくりとその周知
	712	人づきあいがやさしい。	739	学校(教育)と家庭(教育)との連携がしっかりとれていないのでは。	775	在住の芸術家をどう引っ張り出すか。
	713	学校も町も、人が穏やかでのびのびと子どもが育っている。	740	高齢者の比率が高い。	776	家庭教育に地域の人に関わっていきけるしくみづくり。
	714	生活水準が高い。	741	子育て支援のイメージがあまりない。	777	学校通信等の使い方!
	715	別荘文化の名残がある。				

## 8班 「絆が見える町・葉山」

8班では、町内在住歴38年から4年のメンバーたちが、コンパクトな町でありながら、住民と地域、行政のつながりがあいまいで、それが教育・子育て・住環境対策等で様々な問題を招いているという現状を異口同音に指摘。「絆が見える町・葉山」を基本コンセプトに、広報をはじめとする情報発信の充実や窓口対応の強化など、行政がリーダーシップをとっていくことが解決の近道とまとめました。

### 8班の意見の整理表

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
教育	801	音楽家・芸術家などの人材が多いので、その人材を有効に活かせば新しい教育の方向性を生み出せる可能性がある。	831	有能な人材をモチベートし、オーガナイズしていくプロデュース能力がまだない。	871	具体的なテーマを設定して、ワークショップを開いたり、小中学校における特別授業などをやって方向性を探る。
			832	教育現場の荒廃	872	地域の見守り組織の強化
			833	小学校区の児童数のバランスが良くない。		
			834	生涯学習の内容がマンネリ化。		
			835	高齢者（団塊の世代のリタイア組）が教育・文化に参加できる受け皿を。生きがい事業団はそれを果たしていない。		
行政	802	町の地域の多様性。	836	不透明。	873	町の施策を素人にも興味をもって、わかる広報にする（一施策に一広報）。
	803	コンパクトなサイズ。	837	発信がへた。	874	町のシンボルマークを改正するべし。
			838	葉山職員の給料が高いのに、働きが悪い！	875	役所のホームページに住民の意見コーナーを設けてほしい。
			839	ホームページが見にくい。	876	住民自治の意識を子どもの頃から育てる。
			840	しおさい公園の入園料が高い。	877	役場の苦情コーナーの充実（回答をオープンに）
子育て			841	子育て支援センターが月曜日休みなのは不便。	878	子ども会などの行事が多様に計画できる→参加者増または親密に。
			842	保育所問題は葉山方式を生み出せ。	879	横浜市のような抜本的解決力をもつリーダーが必要。
			843	核家族・母子または父子家庭がいかほどか、実態を把握して情報を開示してほしい。		
			844	保育施設不足。		

分類	【強み】		【弱み】		【改善策】	
環境	804	みどりが多い、小さな山があり散歩によい。	845	公園がない。	880	相模湾という海を活かした海洋体験の教育プログラムを仕掛けるべし。
	805	海がある。	846	ベビーカーや子どもが安心して歩ける歩道がない。		
	806	美術館・しおさい公園などがあり、活用できる可能性がたっぷりある。	847	公立保育園が少ない。		
	807	とにかく緑が多い。ずっと維持すべき。				
	808	山の緑と海に囲まれた町としてイメージは良好であるが、教育・人づくりに十二分に活用されていない。				
			848	深夜の国道の騒音。	881	警察の取り締まり強化が必要。(2件)
		849	団地内の違法駐車。			
その他	809	転入者が多い。	850	近所が互いに無関心。		
			851	古いしがらみ。		
			852	住民の地域力発揮の組織づくりが希薄。		

ひとづくりグループのワークショップの様子



## 5 「意見書」検討の際の意見交換概要

第3回・第4回会議での「意見書」の検討の際の意見交換の概要は、以下のとおりです。

### 第3回会議のまちづくりグループの意見交換

- ◇ 「コンパクトなまち」が強みでもあり弱みでもある。両論併記がよい。
- ◇ 町並みを「葉山ブランド」と位置づける書き方は、誤解を生むので避けるべき。
- ◇ 交通の分野で、「強み」が少ないが、葉山は不便だからよい、という町民もいることは事実。
- ◇ 観光の分野では、温泉を掘るなど、目玉的な施策を位置づけていきたい。
- ◇ 産業活性化の分野では、水産加工場やフィッシャーマンズワープのような魚介市場がほしい。また、町主導で産業用地を開発する土地利用を進めていくことも有効。

### 第3回会議の暮らしづくりグループの意見交換

- ◇ ごみの最終処分場の建設や、単独処理・広域処理などの問題については、「町民ワーキンググループ」としては、賛成・反対の両論あることを意見書の本文に書きこむべき。
- ◇ 「財政面を適切に考慮して」という表現を入れる、入れないの両論があるが、「町民ワーキンググループ」としては、財政面に制約されず理想を語る立場として、表現を削除する。

### 第3回会議のひとづくりグループの意見交換

- ◇ 「コミュニティバスの運行」は、ひとづくりのまとめの中にしっかりうたいこんでほしい。
- ◇ 出されている意見はメンバーの私見に基づいたもの。中には客観的なデータに基づいて言及していないものもある。あくまで一住民の私見であるものを提言として言い切ってしまうていいのか。
- ◇ こういう意見が皆さんからあがったので、町が総合計画を作る際に参考にしてください、という程度ならいい。しかし「提言」とされてしまうと、責任を感じるし、どこで調べてそんなこと言い切っているのかと言われかねない。「提言」ではなく、こういう意見があったという程度でいいのではないか。
- ◇ バックグラウンドとなる予算とか財政の問題には触れず、理想を述べている。住民の意見が行政に届けられることはうれしいが、こんなの誰が金を出してやるんだとなったら、それで終わりになるようなものなので、「提言」といえるほどの意見ではない。
- ◇ 私見だが、せっかくここまで意見が出されているわけだから、教育や文化、スポーツといった分野におけるひとづくりについて、一番大切なところを引用して行って、我々で考えられる範囲で現実的な内容、例えばこういうイベントを試験的にやってみたらどうかというようなことをまとめられたらいいのではないかと思う。
- ◇ 提言書というより、会議ができるレベルの人数を集めた意見書ということではないか。それで、言い足りないと思うことがあれば言い、言い過ぎたと思うところは割愛する。今日はその場であるという認識で作業すればいい。
- ◇ 提言という言い方がいいのかは分からないが、住民が行えることというのを含めた上で、文句をつける



のではなく、こういう葉山になったらいいなあということが大事。ではそれについて私たちができてきたことってなんだろうというのを、わざわざ行政が私たちに聞いたということは、素人案なんだけど何かいいアイデアはないものか、皆どう考えているのかということを知る機会でありたいということなのだから、予算がどうか、実現性がどうかではなく、自分が考える葉山はこんなに良いところだったらということを書き、そのために行えるアイデアを出すべきと思う。それができるかどうかは議員や予算を執行する人が考えることで、それを私たちはしっかり興味を持って監視する。今やることは、否定的なことではなく、こんな葉山になってほしいという意見をはっきり伝えられるようにまとめるということ。文句ではなく、そのためにできることを1つでも2つでも、町長や町の人に伝える場だと認識している。

#### 第4回会議の意見交換（ひとづくりグループ）

- ◇ 序文のところは、グループ内に班を置いてその班を中心に検討したことなど、事実にして丁寧に記述していただきたい。
- ◇ あくまで我々がやってきたものをまとめるというのは「報告」。最終的には審議会の答申に基づいて町が計画書をまとめるのだから、これは「意見書」でもオーバーで、「報告書」でもいいくらいである。
- ◇ まちづくりに参加できるような組織を作ってほしい。まちづくりに参加できる人材や場を用意してほしい。そういう記述を入れ込んでほしい。
- ◇ 「広報・広聴」という表現があるが、役場からの一方的なものという感じがするので、住民と役場の双方向のという観点が必要。
- ◇ ひとづくりグループだけ他のグループと書き方が違う形で作ったということだが、私たちのグループがなぜこのような形になったのかという理由として、どの班でも「人材」というテーマが出てきたということの説明をすべき。

## 6 第3回会議のグループワークの結果概要

第3回会議は、まちづくりグループ、暮らしづくりグループでは、「住民が行えること・行いたいこと」をテーマにKJ法ワークショップを行い、ひとづくりグループでは、「住民の役割・地域の役割・行政の役割」をテーマにグループディスカッションを行いました。

### 1班

分類	【産業】		【都市整備】	
美観への協力	A01	休日に農業を行う。	A13	景観維持に町民の参加を促す。 例：町内会対抗で美観維持のための競い合いをする。
			A14	自宅へ木を植える。
			A15	植林活動に協力する。
			A16	美化への協力。 (公共施設について清掃ボランティア) 個人住宅周囲の美化。
PRへの協力	A02	町のPRのためにブログや記事を書く。	A17	幼・小・老合同で楽しめる公園の設置(一定の町の予算措置が必要)。 町側からの呼びかけ。
	A03	町民グループによる現地見学。それにより、町への提言を行う。		
	A04	「葉山コロッケ」を葉山ブランドとして大々的に宣伝する。		
	A05	「葉山山歩きコース」を、「長柄コース」「上山口コース」「木古庭コース」等できちんと整理・整備し自然を楽しんで頂く。		
産業育成	A06	漁業の方へ ひじきをもっととって頂きたい。	A18	古民家ファンド。 立派な古い家を修繕・リフォームし、それに対し住民が出資し、売り上げを還元する。 空き家の活用、防犯面の効果も。
	A07	個人事業主(アーティスト・デザイナー等々)を誘致して、車を使わず、新たな施設を作らずにすむ産業作りを目指す。上記の人々は、横のつながりを作り、葉山内で仕事が回るようにする。	A19	レンタル自転車・スクーターの事業を行う。
	A08	自然をこわさない事業を行う。 (コンサル、プログラミング、その他)		
	A09	森林を買い取りメンテナンスする。		
地消	A10	できるだけ地元のモノ・サービスを利用する。		
	A11	葉山住民は葉山内個人店で買い物をするようにつとめる。 (はやまカードを利用)		
その他	A12	日帰り入浴施設の設置(海岸線沿いならば潮さい公園等、緑の中なら南郷公園等)。	A20	車でなく自転車にのる。

## 2班

分類	【産業】		【都市整備】	
広報（の意識）			B13	ブランド意識の深化。
			B14	個人の広報 （有名人・県庁おもてなし課）。
渋滞	B01	一方通行化のギロン。	B15	歩行者優先の基本的な考え・カラー歩道。 ドライバーのマナー、自然環境。
	B02	ターミナルを作り駐車場駐輪場を併設。 車を整理できる。	B16	公共交通の乗客利用者を増すため、まず車を使わず「公共交通に乗るディ」を作る。
			B17	葉山にターミナルを作り、広い駐車場、駐輪場を設け観光客も Park&Ride。
			B18	バス利用を促す為駐輪場の整備。
			B19	雨でも自転車。
住民の対話と理解	B03	ネットショップを開設する。	B20	（フリー）マーケットへの参加。
			B21	商工会と住民の会話。
			B22	フリーマーケットなどにより生産者と消費者の対話を。
農業	B04	長期計画で町全体の農業を完全オーガニックして葉山ブランド化する。	B23	（ブランド）オーガニックの方向。
	B05	農業生産者の誘致。		
観光	B06	ゾロゾロの観光客は×。 鉄道駅は知らない。		
	B07	観光活性化。 プロジェクトを立ち上げる。		
	B08	観光客は迷惑だという考えを払拭し積極的に交流する。		
行政	B09	行政からのインセンティブ（葉山では）。	B24	建物の屋根、外壁等について行政の指導に協力する。
	B10	町の「成果」の確認とコメント。	B25	街並み保存には税制優遇する。
	B11	「葉山」観光大使。		
	B12	どんな観光客を呼ぶのか？		

3班

分類	【産業】		【都市整備】		【両方にまたがる意見】	
交通			C08	バイク・自転車の活用。		
			C09	公共の交通を利用。送迎による渋滞をさける。		
			C10	あい乗り。		
産業・観光	C01	町内にある古い洋館などを町民ボランティア又はパートの様な形でみせる。	C11	町民で季節の花を植えるような活動をしては！		
	C02	住民の知る葉山町の散歩コースをPRする。	C12	自治会同士の交流を進める。		
	C03	住民の環境維持、庭の手入れ。	C13	新旧、住民が町のよさを理解するため参加型の歩く会などを催す。		
	C04	町全体の清掃（草取り、道路の清掃業）。				
	C05	海岸清掃の充実。				
	C06	専業漁師の育成（遊漁船が主流） 人材育成。 門戸を開く。				
	C07	魚介類の加工場の育成。				
					C14	環境美化に対する町民意識の高揚。
					C15	行政のPR不足

まちづくりグループのワークショップの様子



4班

分類	【安全・安心】	【環境】	【保健・医療・福祉】	
ゴミ		D09	ゴミの分別ルールを守る。よごれたまま出さない。	
		D10	(ゴミ・下水) 回覧板や自治会を使って個人レベルでの意識を向上させる。	
		D11	ゴミの分別。	
		D12	ゴミ。近隣住民同士の交流促進。マナーの向上。	
		D13	生ゴミ処理機の利用。	
		D14	ゴミを作らない工夫をする(余分を買わない。再利用・リサイクルをする)。	
自然環境		D15	散策路、トイレ等の不備をみつけたらすぐに指摘する。	
		D16	歩行者優先の基本的な考え・カラー歩道。ドライバーのマナー、自然環境。	
		D17	自分の庭に、一本でも多く、花、木を育てる。	
		D18	海岸等でのゴミひろい。	
		D19	海・山を使ったイベントの企画開催を通して、意識を向けさせる。	
		D20	有識者の情報をクラウド化して有効活用する。	
		D21	公園等の草取り。	
		D22	海岸、川岸、ハイキングコース等の清掃ボランティア活動。	
安全・安心	D01	町内会で防災準備情報の共有化。	D23	近隣住民同士での相互補助。ex 高齢者の所在、元気かどうか、困ってないか。
	D02	新しい住民への積極的声かけ。地域への帰属。	D24	福祉NPOの活用。
	D03	常日頃から危険な所を頭に入れておく。 津波対策、ガケくずれ等。	D25	いざという時の連絡手段を持つ。
	D04	自治会(町内会) 安全・防犯パトロールをキッチリとやる。	D26	「民」の活用。
	D05	自治会間の交流を深め災害時の相互補助を確立する。		
	D06	町内会自治会での見回り。		
安全・安心 (保健・医療・福祉)	D07	スポーツ大会や同好会に参加して健康促進。		
	D08	自分の事は自分での気概を持つ。 (行政まかせにしない)		

5班

分類	【環境】	【安全・安心】	【保健・医療・福祉】
E01	コンポストの利用を行い、ゴミを少なくする。	E11 地域安全のパトロールに積極的に参加。	E17 近隣の高齢者に目配りをし、特に独居者に配慮する。
E02	新築で住宅を建てるときは、景観を壊さないように壁面の色など自主規制していった方がいいと思う。	E12 防災の面。地域の保管場所に備品の内容が欲しい。サイレンの音が小さく聞き取りにくい。	E18 子どもに声掛け（あいさつ）をし、習慣を身につけさせる心遣い。
E03	道路及び散策路の整備。決められた所は住民（地域）の多くの参加が欲しい。	E13 犯罪が多い場所は、防犯カメラをつける。	E19 高齢者の見守りを考えたい。
E04	自宅周辺の道路清掃をする。	E14 各家の門灯をつける。	E20 総合病院が欲しい。逗子、横須賀と連携し、総合病院の誘致も考えられればと思う。
E05	家の前に草花を植える。	E15 駐車する場合に必ず周囲を見回して対向車の通行を考慮する。	E21 認知症患者増加傾向に対応策を積極的に。
E06	倒木の再利用（薪などに利用）。	E16 各町内会で防犯パトロールを行う。	E22 福祉の面。高齢者と子どもとの交流の場が欲しい。
E07	タイワンリスは個々の家で捕獲を行う。		E23 地域救急病院の受入れ先が少ない。救急車の数が足りない。
E08	自治会での公園清掃などでたくさんの方が参加するようにする。		E24 お年寄りの買い物などを手伝う、お年寄りのお助けグループをつくる。
E09	ゴミ出しのマナーが悪いのを住民同士で声を掛け合って、マナーを守るようにしていく。		
E10	若者の間での御用邸の知名度の低さ。 ⇒広報することで観光へつながるのではないか。		

※環境、安全・安心、保健・医療・福祉をさらに再区分する作業は行わなかった。

6班

分類	【環境】		【安全・安心】		【保健・医療・福祉】	
F01	生ゴミの肥料化を推進します。	F20	対向車回避スペースの掲示。	F27	グループ 体操・料理・お昼寝で認知症予防改善のTV番組を見ました。町と協力してボランティアでグループ活動ができたらいいかな。	
F02	生ゴミを家庭で処理する。	F21	不要の自動車利用を控えます。	F28	高齢者の安否を知らせるブザーとか。	
F03	住民相互の意見交換（生ゴミの処理）。	F22	震災時のかい込みをしない。	F29	家庭円満を心がける。	
F04	家庭内の分別に努力します。	F23	ご近所との「あいさつ」をさらに進めます。	F30	「自治会活動」に積極参加します。	
F05	生ゴミの処理は全家庭で実施＝目標です。 ゴミの総量を減らす。	F24	あいさつ運動（各々があいさつを心がける）。	F31	医療保険のコスト意識を向上させます。	
F06	意識を高めるために感覚的ではなく、具体的に金額を示してやる気にさせるとか。逆にペナルティとか。	F25	地域活動への参加。	F32	「セルフメディケーション」を推進します。	
F07	ゴミ・下水・電力のみえる化。 ⇒スマートグリッドによる数値の公開。	F26	近隣毎の避難活動。	F33	運動のススメ。	
F08	5S （整理・整頓・清掃・清潔・躰）。			F34	各自が健康に気を付ける。	
F09	我が家の「環境方針」を策定します。			F35	健康増進を家庭で進めます。	
F10	再生資源化を推進します。					
F11	汚水も家庭で再利用する。					
F12	個々の分別意識を高める。					
F13	ムダなゴミを削減します。					
F14	ゴミの分別の強化。					
F15	不法投棄を見逃さない仕組みづくり。					
F16	ゴミ処理にコスト意識を持ちます。					
F17	水の再利用。					
F18	生活排水の削減を推進します。					
F19	自然にやさしい生活を心がける。					

※環境、安全・安心、保健・医療・福祉をさらに再区分する作業は行わなかった。

## 7班

分類	【住民】	【地域】	【行政】
G01	土日にできる活動に参加（町外勤務・通学者）。	G08 ヨットスクール・マリナー（マリンスポーツ、安全指導等）。	G13 土日にできる活動づくり。
G02	芸術家・専門家。	G09 児童館での子どもの学び・遊びの支援。	G14 教育プログラムづくり。定期的な活動（生涯教育）。
G03	マリンスポーツインストラクター・森の案内人。	G10 自治会同士の連絡深める公助も必要。	G15 学校教育への活用。
G04	戦争体験者としての話を する。	G11 地域で子どもを見守る体制づくり。見守り隊の充実。	G16 人材バンク。 個人（ボランティア登録・講師登録）。 地域施設・団体。
G05	自分の特性を町に伝える。	G12 安全面指導、支援。	G17 活用紹介ツールを多様に。ネット（ライン、ホームページ）、紙面等。
G06	近所の子どもにも積極的に声をかける。		G18 子育て支援、家庭教育支援。
G07	見守り隊の周知、参加。		

※話し合いの結果を集約して意見カードを書く方式を採った。

## 8班

分類	【住民】	【地域】	【行政】
		H01 子ども会組織と老人会との交流（NPO 法人育成）。	H03 空き教室の利用。
		H02 地域単位での交流。	H04 「ようこそ先輩」葉山版。

※話し合いの結果を集約して意見カードを書く方式を採った。



9班

分類	【住民】		【地域】		【行政】	
人・コミュニ ティ・行政 (ネットワー クシステム を作る)	101	住民同士のつながりを深める。	104	葉山町の文化遺産の維持。	105	広報の充実。
	102	住民自身の情報の発信。			106	人的な資源情報と必要な人やグループとをつなぐ。
	103	住民の葉山町に対する意識の向上(興味がない)。				
学校教育					107	学力テストの結果の情報公開をすること(教育に関して)。
					108	教員の採用に関して住民の意見を入れる。
町づくり					109	中央道〔三浦半島中央道路〕の〔整備計画の〕早期実現。

その他意見

予備日に追加で出された意見カード等は以下のとおりです。

J01	町内会・氏子会・子ども会以外の幅広い地域コミュニティ造成。
J02	地域コミュニティを介して地域文化の継承。
J03	住民知識・講師活用の特殊授業への参画。
J04	教育現場で学力・体力テスト分析、弱み補強の教師要請へ参画。
J05	豊かな心教育講師への参画。
J06	町民が考える行政課題トップ3の提供。
J07	町行政・議会・町民が共通認識を持てる仕組み作りが重要。
J08	地域交通渋滞解消(三浦半島中央道推進)。
J09	国保対象者の無料健康診断。
J10	構想には、分かりやすいキャッチコピーを、キャッチコピーこそ町民の意見を!
J11	通勤ラッシュ時の交通渋滞解消。
J12	逗葉医療圏での医療費統一、補助拡充。
J13	国・県指針を越える葉山町独自の障害者助成、高齢者福祉助成。
J14	自治法附属機関以外の住民参加の仕組み作り。
J15	小児・児童教育助成(保育園・学童保育含む)。
J16	自然環境維持・保全(目指せ!葉山の一人当たりの緑地、公園海浜比率三浦半島でNo.1)。
J17	目的税納税。
J18	自分達でできることは自分達で、行政負荷軽減、ルールは守る。
J19	堀口大学の「花はいろ 人はこころ」の碑がある。
J20	行政の様々な取り組み(計画策定など)に住民がもっと参画できる機会、しくみをつくってほしい。
J21	将来、世界を舞台に活躍できる人材を育成する外国語教育、国際文化教育の推進。

## 7 町長への報告会の概要

「町民ワーキンググループ」を代表して、まちづくりグループの福安徳晃さんと、船津隆一さん、暮らしづくりグループの宮内一さんと影山英梨佳さん、ひとづくりグループの高梨麻美さん、古川英吉さんが、町長に活動を報告し、町長と意見交換を行いました。その概要は以下のとおりです。

町長「各グループの報告をお願いします。」

福安「まちづくりは16人いて、強みが60個出たんですが、自然に関することがいくつあったと思いますか？」

町長「45とか50ですかね」

福安「そこまではいかなかったんですが、35個。一人あたり3・75個の強みを書いた中で、2・18個が自然とか美観のことだったんです。反対に弱みは交通が6割以上でした。不思議なことに、葉山の自然が好きで住んでいる人が、相反する交通の不便さを改善してほしいと言っている。難しい課題ですが、改善のアイデアを意見書にも書きましたので参考にさせていただければ。」

町長「わかりました。暮らしづくりはいかがですか。」

宮内「自然環境、ごみや生活排水、安全安心の話をしました。私の班には大学生がいて、とても前向きな考えを聞いて嬉しかったです。非常に良い雰囲気でした。一つ言うなら、町民税が高いという意見が出ましたが、それは所得が高い人が多いからじゃないかと。」

町長「その通りです。町民税額の算定方法は、原則地方税法上で定められ、全国一律です。誤解もあると思うので、きちんと町の広報等でお伝えする必要がありますね。」

高梨「ひとづくりでは、参加者を見ても人材が豊かであると感じたので、人材について中心に。例えば『俳句の会を主宰していて、町のために何か活かしたいが、どうしていいかわからない』という人もいました。その解決策で『行政と町民がもっと情報交換できれば』という案が出たんです。また、広い意味でひとづくりを考えると、例えば葉山大学のようなものを作り、町外の人にも町のことを知ってもらい、葉山検定とかね。」

町長「ありがとうございます。さて、いただいたご意見は『現在の町について』が多いですが、もう少し将来のこと、例えば2040年には人口が33,000人台から29,000人台に減るといった情報もあるのですが、それを考えると、とるべき施策はどうでしょうか。」

船津「私は以前青年会議所に入っていた時、逗子市と葉山町の市町合併の議論に参加しました。当時は合併すべきと議論しましたが、今回参加して改めて『葉山らしさを残す必要がある』と実感しました。でも葉山らしさを残しつつも、交通問題は改善してほしい。高齢者は町に住み続けたくても、利便性を求めると、交通機関の発達した都会や子どもが住んでいる街に越してしまう。コミュニティバスがあると良いですよ。」

町長「コミュニティバスは採算の問題が大きいですね。しかし少しでもバス待ちを苦痛に思わないように、バス停に屋根やベンチをつけること、バス便の増設についてはバス会社と話を進めているところです。」

影山「友達とは、大学を卒業したら町を出ていこうとよく話します。働くために町外に出たとして、果たして戻ってくるのかなど。高齢者や子育て世代に向けての施策に比べ、働く20代・30代に向けた施策は少なく思えます。通勤や通学の便も悪く、戻ってきたくなくなる魅力が足りない。葉山に住みながら働けたらな。」

古川「自転車に乗ることを勧めて、交通問題を解決するのはどうかな。」

町長「自転車については、駐輪場の整備などを検討したいですね。また、町で働くことについては、産業も

欠かせない。ビルや工場は作りませんが、古民家を再生して仕事場にするなど、そこに法人が入ってきてもらえたらと思っています。」

福安「私のオフィスは横浜ですが、ボスに移動時間をもたないと言われ、ほぼ家で働いています。」

古川「その暮らしを紹介することで、外国の人からも葉山に住みたいと思ってもらえればいいですね。」

船津「農業で誘致するのも良いな。」

宮内「私は環境に関する仕事を長くしていたので、環境マネジメントシステムの認証を提案しました。町の特色を出した施策を打ち出してほしいですね。ごみ削減も、もう少し意識付けの方法があるかなと。」

町長「来年の6月から全町で戸別収集をする予定です。その前提としては『ごみの削減』が大切ですからね。」

古川「生ごみの堆肥化は？」

町長「受け入れる農家が少ないと、堆肥の使い道がなく、難しいことがあります。しかし家庭用生ごみ処理機のキエーロは安定して売れていますし、各小学校にも生ごみ処理機やキエーロを設置するようにしています。子どもには、『生ごみを堆肥化するのは当たり前のこと』と教えたい。最後に、参加されての感想は。」

宮内「交通の便が良い都会よりも、通勤に2時間かかっても葉山に住みたいと思う人もいる。個人の価値観がある中で、どのような計画を作られるか難しいと思います。」

船津「今の町が好きで、高いビルや多すぎる観光客を望んでいない人は多いです。守るところは守りながら、バスのストレス軽減とか、古民家の活用に力を入れてほしいです。」

影山「私は昔カギっ子だったので、児童館の充実もしてほしいです。それで交通の問題も少しずつクリアしていってもらえれば、若者もまた戻ってきたいと思えるのでは。」

古川「私は40年近くこの町に住んで、行政の歴史を見てきましたが、最終的にこの計画は議会や審議会にかける過程がありますよね。少しでもこの意見を反映させるように、審議会にワーキンググループの参加者を入れてみてはいかがでしょうか。」

町長「確かにこの計画は、議会などにも声をかけて議論するものです。しかし今回のように、町民の皆さんと作る計画であることを大前提に置き、今後も計画策定を進めていきたいと思っています。」

### 町長に意見書を手渡す代表者の皆さん



# 8 町民ワーキンググループ実施要綱

## 第四次葉山町総合計画基本構想町民ワーキンググループ実施要綱

(平成25年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この要綱は、第四次葉山町総合計画基本構想策定過程における町民参画の場として、町民ワーキンググループを設置することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(内容)

第2条 今後の基本計画基本構想づくりに活用するため、町民ワーキンググループは、地方自治についての講義及び町からの各テーマに関する現状を踏まえて、今後の町の目指すべき姿について討議するものとする。

(参加者の決定方法)

第3条 住民基本台帳より無作為で抽出した町内在住者1,500人(年齢満20歳以上)に対し、参加依頼の文書を送付し、参加の承諾を得た町民を参加者として決定する。ただし、承諾者が50人を超えた場合は抽選により決定する。

(実施方法)

第4条 町民ワーキンググループには、全体会とテーマ別検討会を設ける。

- 2 全体会は参加者全員が参加し、これからの地方自治についての講義を行うとともに各テーマに関する当町の特色等につき説明を行う。
- 3 テーマ別検討会はテーマごとの今後の町の目指すべき姿について討議する。
- 4 テーマ別検討会のテーマは下表のとおりとする。

テーマ	対象分野	担当課等
まちづくり	都市づくり 産業観光 農林水産	都市計画課 道路河川課 産業振興課
暮らしづくり	環境 安全・安心 福祉	環境課 総務課防災係 福祉課 健康増進課
ひとづくり	教育 子育て 文化	学校教育課 子ども育成課 生涯学習課

- 5 町民ワーキンググループの運営は、総務部企画調整課が行う。

(職員参加)

第5条 町民の視点、町民の声を意識する機会を得るため、町民ワーキンググループに討議テーマの担当課等の職員が参加するものとする。

- 2 町民ワーキンググループに参加する職員は、全体会においてテーマ別検討会の対象分野について当町の特色等の説明を行うとともに、テーマ別検討会にはオブザーバーとして同席し、必要に応じて情報提供を行う。
- 3 町民ワーキンググループに参加する職員は、担当課等からの推薦により決定する。

(謝礼)

第6条 全体会での講義講師に対し、謝礼を支払うものとする。

- 2 参加者には、記念品を贈呈するものとする。

(成果の取り扱い)

第7条 テーマ別検討会における討議結果については、結果報告としてまとめ、町ホームページなどを通じて公表するとともに、今後の基本構想策定、審議及び個別計画等に活用するものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めのない事項については、別に協議のうえ、定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行し、平成26年3月31日をもって終了する。

## 9 町民ワーキンググループ参加者名簿

〔町民ワーキンググループ参加者〕

班別・五十音順（敬称略）

氏名	班	グループ	備考
福安 徳晃	1班	まちづくりグループ	
松本 敏正	1班	まちづくりグループ	
諸江 卓	1班	まちづくりグループ	
保井 従子	1班	まちづくりグループ	
柳橋 絹子	1班	まちづくりグループ	
宇梶 健	2班	まちづくりグループ	
遠藤 敏明	2班	まちづくりグループ	
小澤 敬三	2班	まちづくりグループ	
角南 佑記子	2班	まちづくりグループ	
船津 隆一	2班	まちづくりグループ	
石川 龍二	3班	まちづくりグループ	
石本 堅志	3班	まちづくりグループ	
今井原 毅	3班	まちづくりグループ	
田中 裕子	3班	まちづくりグループ	
柳川 康夫	3班	まちづくりグループ	
渡邊 宏	3班	まちづくりグループ	
石川 浩士	4班	暮らしづくりグループ	
今井 弘	4班	暮らしづくりグループ	
加藤 芳明	4班	暮らしづくりグループ	
中西 健祐	4班	暮らしづくりグループ	
平塚 淑江	4班	暮らしづくりグループ	
宗村 潔	4班	暮らしづくりグループ	
大塚 洋	5班	暮らしづくりグループ	
影山 英梨佳	5班	暮らしづくりグループ	
鹿島 忠夫	5班	暮らしづくりグループ	
加藤 静江	5班	暮らしづくりグループ	
村上 直	5班	暮らしづくりグループ	
石黒 和久	6班	暮らしづくりグループ	
太田 壯思	6班	暮らしづくりグループ	
木村 勇太	6班	暮らしづくりグループ	
嶋谷 靖夫	6班	暮らしづくりグループ	
杉江 京子	6班	暮らしづくりグループ	
宮内 一	6班	暮らしづくりグループ	
臼倉 亜紀子	7班	ひとつづくりグループ	
春日 裕子	7班	ひとつづくりグループ	
熊谷 壽晃	7班	ひとつづくりグループ	
嶋田 裕司	7班	ひとつづくりグループ	
高梨 麻美	7班	ひとつづくりグループ	
松平 力	7班	ひとつづくりグループ	
川岸 宏吉	8班	ひとつづくりグループ	
野村 祐子	8班	ひとつづくりグループ	
橋本 正子	8班	ひとつづくりグループ	
舟久保 利明	8班	ひとつづくりグループ	
古川 英吉	8班	ひとつづくりグループ	
大野 百合子	9班	ひとつづくりグループ	
黒下 行雄	9班	ひとつづくりグループ	
若林 諒	9班	ひとつづくりグループ	

※9班は、第2回会議を欠席し、第3回会議に出席した3人による班です。

荒井 健雄		第1回のみ出席
大澤 永江		第1回のみ出席
大日方 佳子		第1回のみ出席



第四次葉山町総合計画基本構想  
町民ワーキンググループ  
活動報告書

平成 25 年 8 月

発行：神奈川県葉山町  
編集：葉山町総務部企画調整課

〒240-0192 神奈川県三浦郡葉山町堀内 2135 番地  
電話 046-876-1111（代表）